国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

もう黙ってなんかいられない

日刊 動労千葉

87. 6. 22

No. 2582

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「一企業一組合」はガタガタ 今こそ解体のチャンスだ！

すべての組合員のみなさん！

分割・民営化強行からわずか二ヵ月半、この攻撃が完全に失敗したことが手にとるように明らかになってきた。裏切り者の野合集団＝鉄道労連が真っ二つになろうとしている。六月十六日には鉄労専従が引きあげ、六月十九日には東鉄労の執行委員会が「盛岡問題」をめぐって真っ二つに割れた。「一企業一組合」で労働者を支配し、地獄を強制するという中曽根・当局の狙いは音をたててガラガラと崩れている。今こそ反撃のチャンスだ。「6・20集会」の圧倒的な成功をうけ、職場からの反撃体制を打ち固めよう。

堪忍袋の緒は切れた

もう黙ってはいられない。当局の無法・不当な差別、権利剥奪、運転保安無視、強制配転、強制出向、「タダ働き」強要。当局！労働者を何だと思っているんだ。

乗務員に対しては、あごヒモ、カーテンを運行部の連中が途中駅でチェック。

ある「お偉いさん」は、自分の通勤電車に制服で乗りこみ、運転室の後ろに陣取り、あごヒモ、カーテンチェック。勝浦ではなんと、カーテンをしめなくてはいけないトンネル区間に運行部の連中が私服で乗りこみ、運転室の後ろのドアをけとばし「カーテンを開けろ」とどなりちらす。当局！乗務員にこんな精神的苦痛を強要して口を開けば「黒字だ！　安全だ！　サービスだ！」フザケルンじゃない。

会社の「黒字」、「赤字」は、労働者に関係ない

検修では、個名点呼はもちろん「新会社の経営指針」なるものを点呼の時に一日交代でみんなの前に立たせ、大声で読ませている職場もある。「黒字を目指せ」という例の指針である。その日の業務内容を確認する点呼に「黒字を目指せ」と労働者に合唱させ、当局に忠誠を誓わせようというのだ。そもそも会社が「黒字」になるか「赤字」になるか、それは経営者の責任だ！　労働者には全く関係ない。当局の責任を労働者に押しつけ、今度は「タダ働き」の強要。何が「会社の規則・ルールを守らなければいけない」だ。法をも踏みにじっているのは当局だ。

職場抵抗闘争を貫き反撃体制確立へ

今一度、原点を確認し、反撃体制をうち固めよう！　屈服は奴隷の道だ。「小集団」にからめとられたら、今度は「増収ノルマを達成できないと成績にひびく」ということになるにきまっている。

小集団絶対拒否、賃金の銀行振り込み拒否、ネクタイピン着用の方針を貫く職場討議をまきおこし、いざ反撃へ！

6月20日（土曜日）　毎日

東鉄労

動労、鉄労 真っ二つ

盛岡地連の人事などで

JR労組最大グループの鉄道労連を結成、組織統一をめざしている動労（松崎明委員長）と鉄労（志摩好道組合長）が、十九日東日本鉄道労連（東鉄労）盛岡地連の役員、大会運営問題で真っ二つに割れ、両者の対立は決定的となった。同日開かれた東鉄労（松崎委員長）の中央執行委員会で、鉄労の反対を押し切る形で採決が行われたため鉄労側は「鉄道労連は鉄労、動労など四組合の連合組織で、決定は全会一致が原則だ。動労のやり方は連合組織を破壊する全体主義的やり方」と猛反発。鉄労の東日本総本部では二十日午後一時から代表者会議を開き、対応策を決める。

対立の発端となった東鉄労盛岡地連の再建大会は、今月六日開かれた。しかし、鉄労組合員の大半は「日程に無理がある」との理由で参加しなかった。このため東鉄労の松崎委員長は「この日、参加した組合員を代議員にする」として大会を開催、地連役員を決めた。これに対し、鉄労側が硬化、「大会は規約違反だ」と無効を主張。収拾がつかぬまま問題は東鉄労本部に持ち込まれた。

十九日の東鉄労中執委は、盛岡問題をめぐって開かれたが、「採決で大会の成立を確認する」とする動労に対し、鉄労は「大会は無効。白紙に戻せ」と再三にわたって主張。結局、採決が行われ、動労、社員労、日鉄労が賛成に回り、鉄労の反対を押し切る形になった。

二十日の代表者会議の対応次第では、東鉄労内での連合解消など重大局面も予想される。

鉄道労連の危機を連日報道するマスコミ。崩壊は決定的だ。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！